

# 『づくり』とは



近年、全国各地で災害が相次いでおり、本町においても台風 24・25 号での被害など、「想定外」と言えない状況にある。住民の皆さんが安心して暮らし続けていくことのできる「災害に強いまち」としてのあるべき姿を検討しあい問題点を追求しました。

## 避難の備え・対応は

**【野口俊】** 住民にわかりやすい言葉での通知・連絡が必要だ。

**【西山】** 防災の基本は自助である。防災マップの確認、非常食の準備など事前の準備が必要である。

**【池田】** 指示を待つのではなく、自ら行動することが大切であり、避難経路の確認が必要。

**【野口昌】** 自分のものとしての意識が必要であり、防災無線やテレビなどを聞いて備える。

**【森本】** 事前には危険箇所の確認、発災直前には、避難を促し、発災後は、人の命を救うことが大事であり、スマートフォンアプリのLINEなど情報の道具も使うことも必要である。

**【吉原】** 自主防災組織の充実が必要である。非常時に全体の把握は難しく、向こう3軒両隣の「近助」も大事だ。

**【大森】** 自分の身は自分で守るのがまず大事。次に共助で避難するときに声をかけあうこと。日ごろからの訓練と正しい知識が大事である。

**【西尾】** 30年間で、50ミリ以上の雨の観測地点は1.5倍になったと聞くが、事実を知ることが大事であり、混乱時では住民同士助け合う力が重要である。

**【門脇】** 日ごろの訓練が一番であり、個別集落にはそれぞれの災害が想定され、正しい行動がとれるよう町の支援も必要である。

**【大杖】** 災害は忘れた頃にやってくる。日常から災害の想定も必要であり、発生時は個人での行動は難しく、自主防災組織での対応となる。

**【近藤】** 自主防災組織の役割が重要であり、まちづくりがしっかりと進んでいるところが、災害に強いまちと思う。

**【岡田】** 各家庭の備えが必要であり、食料の備蓄や避難経路の確認、連絡方法の確認が大事。

**【米本】** 自主防災組織が本当に対応できるか疑問である。自助できない災害弱者に行政としての支援策も大事である。

**【加藤】** 自助・共助が身近であり、日ごろから家族で話し合うことが大事である。

**【大原】** 災害時、情報は錯綜する。避難時に要支援者を誰が助けに行くのか、日ごろの心の備えも必要である。



町民の安心・安全を守る消防団